

# 令和7年度 赤穂市学校(園)評価報告書

学校園名 赤穂市立赤穂西小学校

## 1 本年度の学校(園)経営方針

「『豊かな心』と『確かな学力』を身につけ、夢に向かって進んでいく児童の育成」の学校教育目標のもと、個別最適な学び・協働的な学びとその往還から、自ら学ぼうとする児童の育成を図ると共に、互いの個性を認め合い、共に伸びていこうとする仲間づくりを推進する。また、「地域に愛され 地域と共に創る学校」を目指し、コミュニティ・スクール活動を推進すると共に、ふるさとを大切に育てる児童の育成を図る。

## 2 本年度の学校(園)重点目標

- (1) 豊かな心の育成
- (2) 確かな学力の育成
- (3) 健やかな体の育成
- (4) ふるさとを愛する心の醸成
- (5) 働きやすい職場づくり
- (6) 保護者や地域に信頼される学校づくり

## 総合的な学校園関係者評価

本年度の本校の教育活動全体を通じて、最も大きな成果として挙げられるのは「子どもたちの主体性の向上」である。子どもたちが学校生活を「楽しい」と肯定的に捉え、行事の計画・運営に自発的に取り組む姿が見られた。特に高学年を中心に「話を真剣に聞く姿勢」が定着し、学校全体に落ち着いた点が生まれた点は、自律的な成長を示す重要な指標と言える。

一方で、基礎的な資質・能力の向上については、今後の喫緊の課題である。全国平均を下回る学力、自然環境に恵まれながらも低迷する体力、そして幼小中を通じて続く読書離れに対し、実効性のある対策が求められている。また、タブレット学習の普及による「書く力」への影響や、小規模校ゆえに不足しがちな「競争心」や「大人数集団への適応力」をどう補完していくかが、今後の学校運営の焦点となる。

今後は、一人ひとりをきめ細かく見守る小規模校の強みを堅持しつつ、地域行事への参画を通じた「多様な大人との関わり」を強化していく。学校・家庭・地域が一体となり、安心感のある環境の中で、将来の社会生活に耐えうる「確かな学力」と「たくましい社会性」を育む取り組みを推進する必要がある。

## 3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

## 学校園関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

| 観点<br>(重点目標) | 評価項目<br>(学校園・教師の取組)<br>評価指標および目標値<br>(期待される姿)   | 評価資料                               | 達成状況 | 改善の方策   |
|--------------|---|------------------------------------|------|---|
| 豊かな心の育成      | 項目<br>特別な支援を要する児童について全職員で共通理解し、目標を立てて指導・支援を行っているか。<br>指標<br>教職員と特別な支援を要する児童が目標を共有し、達成に向けて取り組んでいる。       | 児童の様子<br>個別の指導計画<br>特別支援教育校内委員会    | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童を主体とした特別活動の継続的な取組の推進を行う。</li> <li>道徳教育、人権教育を核にした学校運営の継続的な推進を行う。</li> <li>学校運営協議会と密に連携し、郷土愛を育む地域学校協働活動の継続的な推進を行う。</li> <li>いじめ見逃し0、不登校0をめざし、児童の様子に細心の注意を払いながらその変化を的確に捉え、保護者と連携して対応をする。</li> </ul> |
|              | 項目<br>人権教育を推進し、児童の居場所づくりと、互いの個性を認め合える態度を育成することができている。<br>指標<br>児童は、明るくいきいきと学校生活を送っている。自己有用感・自尊感情が育っている。 | 児童の様子<br>児童アンケート                   | A    |   |
|              | 項目<br>道徳教育の充実を図り、考え議論する道徳の時間の充実に努めているか。<br>指標<br>児童は、道徳的諸価値について理解し、考えを言語化して伝え合い、深めている。                  | 児童の様子<br>児童アンケート<br>道徳ノート          | A    |   |
|              | 項目<br>いじめ・不登校問題について全職員で共通理解し、組織的、積極的な対応をしているか。<br>指標<br>児童・保護者は、悩みやしんどさを学校や関係機関に相談している。                 | 児童の様子<br>いじめ・不登校対策及び生活指導委員会月1アンケート | A    |   |
|              | 項目<br>目標を明確にし、特別活動を要しつつ教育活動全体を通してキャリア教育に取り組んでいるか。<br>指標<br>児童は、自己の将来像を描き、学ぶことや働くことの意義・役割を理解している。        | 児童の様子<br>キャリア・パスポート<br>キャリアノート     | A    |   |
| 確かな学力の育成     | 項目<br>基礎・基本の力の定着と向上のため、適切な指導・支援を行っているか。<br>指標<br>児童は、学年相応の計算・漢字を8割以上習得している。                             | 児童個人カルテ<br>テスト<br>学習成果物            | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数の特性を生かしたきめ細やかな教科指導を行う。</li> <li>ICTを効果的に活用し、個別最適化された学習の提供を行う。</li> <li>探究的な学習活動を取り入れ、児童の興味関心に沿った活動が展開できるように工夫する。</li> </ul>   |
|              | 項目<br>児童の「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の創造に努めているか。<br>指標<br>単元・授業の中に、児童の個別最適な学び・協働的な学びが見られる。                      | 研究授業<br>研究テーマシート<br>児童の様子<br>学習成果物 | B    |   |
|              | 項目<br>ICTを効果的に活用した学習活動の推進に努めているか。<br>指標<br>児童は、クラスルーム・スクールタクト・デジタルドリル等を使って学習している。                       | 市内活用状況表<br>研究授業<br>ICT研修           | B    |   |

| 自己評価は適切か | 改善方策は適切か | 課題と来年度具体的改善方法  |
|----------|----------|--|
| ◎        | ◎        | 本年度は、子どもたちが学校を「楽しい」と肯定的に捉え、行事等において自ら考え行動する主体性の高まりに大きな成果が見られた。高学年を中心に「相手の話を真剣に聞く姿勢」が根付き、学校全体に他者を尊重する落ち着いた雰囲気醸成されている。マラソン大会の工夫によって、苦手なことにも前向きに挑む「意欲」が育った点も高く評価できる。一方で、小規模校ゆえの「集団適応力」や「競い合う経験」の不足が今後の懸念材料である。安心感のある環境が守られている反面、多様な価値観に触れ、葛藤を乗り越える機会が限定的であることは否めない。また、幼小中を通じて続く読書時間の減少は、他者への想像力や感性を育む土壌を細くしており、豊かな心を養う上での大きな課題となっている。さらに、地域連携は進んでいるものの、地域行事への実参加を通じた「多様な大人との関わり」には、まだ改善の余地がある。今後は、他校との交流学習やオンライン授業を戦略的に取り入れ、少人数環境では不足しがちな「多様な視点と適度な緊張感」を創出する。読書習慣については、ボランティアによる読み聞かせや家庭と連携した読書時間の確保を推進し、感性を磨く環境を再構築する。あわせて、地域行事において児童が運営や発表などの「役割」を担う機会を増やし、多様な世代との交流を通じた自己有用感の育成を図る。 |
| ◎        | ◎        | 自ら考え行動する主体性が育ち、学習に向かう姿勢や落ち着いた点が向上した点は大きな成果である。反面、学力が全国平均を下回っていることや、タブレット学習の普及による「書く力」の低下、基礎的な学習習慣の形骸化が深刻な課題となっている。少人数ゆえの切磋琢磨する機会の少なさも、学力向上を阻む要因として懸念される。ICTの利便性と「ノート指導・記述」による言語活動をバランスよく両立させ、基礎学力の定着を徹底する。また、他校との合同学習やグループ学習を強化し、多様な意見に触れることで思考の深化と適度な競争意識を促す。あわせて、家庭と連携した読書習慣の確立を図り、全ての学習の基盤となる読解力の底上げを推進する。  |

| 観 点               | 評 価 項 目 (学校園・教師の取組)<br>評 価 指 標 および 目標値 (期待される姿)  | 評価資料                               | 達成状況 | 改善の方策  |
|-------------------|--|------------------------------------|------|--|
| 健やかな体の育成          | 項目 体育・保健学習の改善・充実を図り、日常的な運動や遊びによる体力づくりに努めているか。<br>指標 児童は、「全員遊び」、「なかよし遊び」、縄跳びやマラソン等に積極的に取り組んでいる。     | 児童の様子<br>体育・保健学習の振り返り<br>縄跳びがんばり表  | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢で運動する機会を増やし、楽しく活動しながら体力の向上を図る。</li> <li>食育や病気の予防、早寝早起き朝ご飯運動を通してよりよい生活習慣の育成について、各家庭と連携を取りながら取組を進める。</li> </ul>  |
|                   | 項目 健康や安全面の充実が図られるように努めているか。<br>指標 児童は、自分の体や健康について理解し、感染症対策等自己の健康管理に取り組んでいる。                        | 児童の様子<br>保健学習の振り返り<br>生活表          | A    |  |
|                   | 項目 家庭と一体となった生活習慣の改善と確立に努めているか。<br>指標 児童や保護者は、「早寝・早起き・朝ごはん」運動に積極的に取り組んでいる。                          | 児童の様子<br>早寝・早起き・朝ごはん表<br>保護者アンケート  | A    |  |
| ふるさとを愛する心の醸成      | 項目 地域での体験活動や、保護者や地域の方との交流を取り入れたコミュニティ・スクール活動の推進に努めているか。<br>指標 児童は、地域での体験活動や、保護者・地域の方との交流を通して学んでいる。 | 児童の様子<br>生活・総合等での振り返り<br>学校・学年だより  | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、総合的な学習の時間、道徳教育を中心に、積極的に地域と連携し、西部地区の素晴らしさを主体的に感じることで、郷土を愛する心を育む。</li> </ul>   |
|                   | 項目 地域・家庭・校園所と密接に連携をとり、よりよい教育活動を行うよう努めているか。<br>指標 児童は、「さんぽ・一声運動」や「あいさつ運動」の趣旨を理解し、地域の方に挨拶している。       | 児童の様子<br>生活表<br>あいさつ運動<br>保護者アンケート | A    |  |
| 教職員が働きやすい職場づくり    | 項目 業務改善の推進に努めているか。<br>指標 教職員は、業務改善推進委員会を定期的実施している。定時退勤日・ノー会議デーを実施している。                             | 教職員の様子<br>業務改善推進委員会<br>記録簿         | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>勤務時間の適正化を今後も継続して行えるような職員室環境を構築する。</li> </ul>  |
|                   | 項目 教職員の協働体制が確立されているか。<br>指標 教職員は、学校行事、研究推進等円滑な学校運営のため、協力して機動的に対応している。                              | 教職員の様子<br>業務改善推進委員会<br>記録簿         | A    |  |
| 保護者や地域に信頼される学校づくり | 項目 教職員の資質向上と互いに学び合う教師集団の育成に努めているか。<br>指標 教職員は、研究主題に向かって、計画的に研究授業や研修会を実施している。                       | 研究授業<br>研修会<br>研究テーマシート<br>ふりかえり   | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域のニーズに対して真摯に対応し、信頼関係の構築を常に意識する。</li> <li>学校ホームページやおたよりを通じて、学校の様子の積極的な配信について継続して行う。</li> <li>学校運営協議会やPTA委員会において学校運営についての意見を積極的に集め、適宜改善を図る。</li> </ul> |
|                   | 項目 学校評価を活かした教育活動の改善に努めているか。<br>指標 学校は、学校評価結果や改善方法について、学校運営協議会・HP等で説明している。                          | 学校評価<br>学校だより<br>学校運営協議会<br>HP     | A    |  |
|                   | 項目 施設環境の整備・危機管理体制の確立に努めているか。<br>指標 教職員は、安全点検を月1回実施したり、危機管理マニュアルに基づいた訓練を実施したりしている。                  | 危機管理マニュアル<br>安全点検簿<br>訓練           | A    |  |
|                   | 項目 地域・保護者への積極的な情報発信に努めているか。<br>指標 学校は、通信やHPを定期的に発行し、学校の様子や考えを伝えている。                                | 学校・学年だより<br>HP<br>メール              | A    |  |

| 自己評価は適切か | 改善方策は適切か | 課題と来年度具体的改善方法   |
|----------|----------|---|
| ◎        | ◎        | マラソン大会の実施方法を工夫したことで、運動が苦手な児童も意欲的に取り組めるようになり、挑戦する心が育った点は大きな成果である。一方で、恵まれた自然環境がありながら体力測定の結果が低迷していることや、日常的な運動習慣の不足が課題となっている。小規模校ゆえの活動範囲の限定や、外遊びよりも室内での過ごし方を好む傾向も体力向上を阻む要因として挙げられる。「走る・投げる」といった基礎的な動きを遊びや日常の活動に取り入れ、楽しみながら体力向上を図る仕組みを構築する。ICTを活用して自らの運動記録を可視化し、目標達成の喜びを実感させることで、自発的な運動習慣の定着を促す。また、家庭と連携して睡眠や生活リズムの重要性を周知し、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの健康な体作りを推進する。 |
| ◎        | ◎        | 地域と連携した教育活動により、地域の人々に見守られているという安心感と愛着が育っている点は大きな成果である。一方で、地域行事への児童や保護者の参加率が低く、学校外での主体的な関わりが希薄化している点が課題となっている。また、児童数の減少により、地域の伝統や文化を継承していくことへの危機感も共有されている。地域行事での「活躍の場」を創出し、貢献を通じた愛着を育む。地域の自然・文化を深く学ぶ体験活動を充実させ、次世代の担い手としての意識を醸成する。  |
| ◎        | ◎        | 児童の主体性向上や落ち着いた校風により、指導上の負担や勤務時間が軽減されている点は成果である。一方、児童数減少に伴う将来の学校運営への不安が、心理的負担となっている面は否定できない。ICTの徹底活用による校務の効率化・スリム化を進め、教材研究の時間を確保する。また、今後も対話を通じた風通しの良い組織文化を構築し、教職員が心身ともに健康で、子どもと向き合う時間を最大化できる環境を整える   |
| ◎        | ◎        | 教育活動の積極的な公開により、児童の生き生きとした姿が「地域の誇り」として高く再評価されている。学校への期待感がかつてないほど高まった。今後はこの信頼を糧に、学力向上や地域参画といった共通課題に対し、双方向で協力し合う関係性をさらに深めていく。しかし、全国平均を下回る学力や体力面への不安、地域行事への参加率の低さが課題として残る。今後は、学力・体力向上のプロセスを透明化して発信し、学校の改善姿勢を明確にする。また、地域行事への児童の役割を戦略的に設定することで「地域に貢献する学校」を具現化したい。加えて、SNSや学校運営協議会を柔軟に活用し、保護者・地域の声を迅速に経営へ反映させることで、当事者意識に基づいた強固な信頼関係を再構築する。                      |